

ほたるっ子



磐梯第一小学校
学校だより
NO. 5
R4. 4. 19
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

一本のラインがあるだけで



校庭にライン（白線）を引く体育主任の横山 大先生。校庭のラインが消えかかると子どもたちが走りやすいように、体育で運動がしやすいように、子どもたちの登校前にラインを引いています。



始業前、元気に校庭を走る子どもたち

毎朝、始業前に元気に校庭のトラックを走る子どもたちの姿があります。そんな子どもたちの姿を見ると、とても清々しい気持ちになります。

横山先生が引いたラインに沿って元気に走り出す子どもたちの姿をみると、「環境って大事だなあ」とつくづく感じます。一本のラインが、子どもたちの走りたい気持ちを高めています。

「許す」ということ

うちの家はいつもみんなが笑いました。お父さんが悪かったと言いました。そしてみんなが笑いました。うちの家はいつもみんなが笑います。うちの家はいつもみんなが笑います。

でも私は思い出しました。きのうお兄ちゃんが金魚ばちをはじっこに置いた時、私は「危ないな」って思ったのに、それを言わなかったから、私が悪かったと言いました。夜、帰ってきてそれを聞いたお父さんは、「いや、お父さんが金魚ばちを買う時、丸い方でなく、四角い方にすればよかったなあ。お父さんが悪かった」と言いました。

(ある作文より)

うちの家はみんなが悪い

心がほっこりする作文です。“許す”ということは、相手に対する優しさの“許容量”なのではないかと思います。

子どもたち一人一人が優しさの“許容量を”持って生活できれば、人と人とのいい風景がさらに見られる磐梯第一小学校になるだろうなと思っています!